

甲佐町文化財調査報告書第1集

世持・石佛遺跡 世持・道免遺跡

県営乙女大沢水地区農免農道整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査

2007

甲佐町教育委員会

世持・石佛遺跡 世持・道免遺跡



甲佐町教育委員会



金峰山を望む



世持・道免遺跡全景（緑川を望む）



世持・石佛遺跡全景

序 文

甲佐町は、熊本県のほぼ中央に位置し、九州山地に源を発する一級河川「緑川」が貫流する自然豊かな町です。本町は、この緑川の恩恵を多大に受けながら、農業を中心に文教の町として発展してきました。

本書は、「世持・石佛遺跡 世持・道免遺跡」の発掘調査報告書です。調査では、縄文時代晩期の遺物を中心に、古代・近世の遺構が出土し、事業地区の歴史を解明する貴重な資料を収集する事ができました。

この報告書が、より多くの皆様にご利用頂き、歴史や文化財への理解とともに、学術研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査を実施するにあたり、熊本県上益城地域振興局をはじめ、世持区、各関係機関の皆様には、多大なるご協力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

甲佐町教育委員会 教育長 溜渕誠也

例 言

- 1 本報告書は、甲佐町教育委員会が熊本県上益城郡甲佐町大字世持地内において平成15年度から平成16年度に実施した、世持・石佛遺跡及び世持・道免遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、県営乙女大沢水地区農免農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、熊本県上益城地域振興局の依頼をうけ甲佐町教育委員会が実施した。
- 3 遺構の実測は、大部分を株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託し、一部を担当の西口貴志が行った。
- 4 空中写真撮影は、株式会社九州航空及び株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
- 5 遺物の実測及び製図は、一部を朝日航洋株式会社に委託した。
- 6 遺構の写真撮影は西口が行った。
- 7 検出した遺構は溝をSD、土壌をSK、不明遺構をSX、ピットをSPとした。
- 8 本書で用いる遺構番号は全体で通し番号にし、報告の際には番号の前に遺構の性格を示す略号を付して表記している。
- 9 本書に関わる図面・写真・遺物などの全資料は甲佐町教育委員会において収蔵・保管され、その成果は甲佐町教育委員会に帰属する。
- 10 本書の執筆及び編集は西口が行った。

本文目次

序 文

例 言

第 I 章 調査の契機と経過

| | |
|-----------------------------|---|
| 第 1 節 調査に至るまでの経緯 | 1 |
| 第 2 節 調査組織 | 2 |
| 第 3 節 試掘調査と本調査の経過について | 3 |
| 1 試掘調査の概要 | 3 |
| 2 本調査の経過 | 3 |
| 第 4 節 報告書作成業務の経過 | 4 |

第 II 章 遺跡の概要

| | |
|------------------|---|
| 1 遺跡の地理的環境 | 4 |
| 2 遺跡の歴史的環境 | 6 |

第 III 章 調査とその成果

| | |
|-------------------|----|
| 第 1 節 調査の方法 | 8 |
| 1 調査区の設定 | 8 |
| 2 調査グリッドの設定 | 8 |
| 3 実測図の作成 | 10 |
| 4 写真による記録 | 10 |
| 5 基本層序 | 10 |
| 第 2 節 遺構と遺物 | 11 |
| 1 世持・石佛遺跡 | 11 |
| 2 世持・道免遺跡 | 19 |

第 IV 章 考察

| | |
|----------|----|
| 図版 | 29 |
|----------|----|

挿 図

世持・石佛遺跡

SK205平面・断面図

SD201平面・断面図

SK203平面・断面図

SK301平面・断面図

SK206平面・断面図

SD202平面・断面図

世持・道免遺跡

SK301平面・断面図

SX201平面・断面図

SX203平面・断面図

SD102平面・断面図

SD302平面・断面図

SK201平面・断面図

SK203平面・断面図

SK205平面・断面図

SK302平面・断面図

SX202平面・断面図

SD101平面・断面図

SD301平面・断面図

SK401平面・断面図

SK202平面・断面図

SK204平面・断面図

SK206平面・断面図

図 版

世持・石佛遺跡

Ⅱ・Ⅲ区 調査前風景

Ⅱ区 SK205 土層断面

Ⅱ区 SK203 土層断面

Ⅱ区 SK203 掘削状況

Ⅱ区 SD201 土層断面

Ⅱ区 SK203・SD201 完掘状況

Ⅲ区 SK301 検出状況

Ⅲ区 SK301 出土状況

Ⅱ区 基本層序 土層断面

Ⅱ区 SK206 土層断面

Ⅱ区 SK203 土層断面（崩落土）

Ⅱ区 SD201 検出状況

Ⅱ区 SD201 完掘状況

Ⅱ区 磨製石斧 出土状況

Ⅲ区 SK301 土層断面

世持・道免遺跡

Ⅲ・Ⅳ区 調査前風景

Ⅰ区 SD101・SD102検出状況

Ⅱ区 SK201 炭化物出土状況

Ⅱ区 SK204 検出状況

Ⅱ区 SK205 土層断面

Ⅱ区 SX201 土層断面

Ⅱ区 SX202 土層断面

Ⅲ区 SD301 検出状況

Ⅲ区 SD302 土層断面

Ⅳ区 SK401 土層断面

Ⅱ区 SK201 土層断面

Ⅱ区 SK203 検出状況

Ⅱ区 SK205 検出状況

Ⅱ区 SX201 検出状況

Ⅱ区 SX202 検出状況

Ⅲ区 SK302 土層断面

Ⅲ区 SD302 検出状況

Ⅳ区 SK401 検出状況

第Ⅰ章 調査の契機と経過

第1節 調査に至るまでの経緯

【平成14年度】

熊本県教育庁文化課では、平成14年6月及び8月の二度にわたり、県営乙女大沢水地区農免農道整備事業に伴い工事計画地の試掘調査を実施した。その結果、現地で中世の遺構・遺物を確認し、世持・石佛遺跡、世持・道免遺跡として認知した。

【平成15年度】

甲佐町教育委員会では、熊本県上益城地域振興局からの埋蔵文化財発掘調査の依頼を受け（平成15年8月25日）、基本協定を結び（平成15年10月27日）、発掘調査委託契約を締結した。（平成15年12月19日）

また、発掘調査の実施に伴い上益城地域振興局では、文化財保護法第57条の3第1項の規定により、甲佐町教育委員会を経て県文化課に周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について届出を行った（平成15年12月22日）。甲佐町教育委員会でも文化財保護法第58条の2第1項の規定により埋蔵文化財発掘調査について届出を行い（平成16年1月5日）調査に着手した。発掘調査は、平成16年1月13日から行い、3月23日まで実施した。

【平成16年度】

甲佐町教育委員会では、発掘調査に先立ち文化財保護法第58条の2第1項の規定に基づき熊本県教育委員会に対し埋蔵文化財発掘調査について届出を行った。（平成16年4月5日）また、熊本県上益城地域振興局との間で発掘調査委託契約を締結し（平成16年4月16日）、全手続き終了後の平成16年4月20日作業に着手した。

作業は、平成16年11月8日全作業を終了し、調査区を上益城地域振興局へ引き渡した。

【平成17年度】

甲佐町教育委員会では、出土遺物等の整理作業を行うため熊本県上益城地域振興局との間で発掘調査委託契約を締結し（平成17年6月13日）、平成17年9月9日作業に着手。平成18年3月2日作業を終了した。

第2節 調査組織

埋蔵文化財発掘調査及びその整理作業、報告書の発刊は平成15年度から平成18年度までの4カ年にわたり継続して実施した。以下にその組織を記す。

【埋蔵文化財発掘調査（平成15～16年度）】

調査責任者 溜淵誠也（甲佐町教育長）

調査事務局 山本勝一（社会教育課長）

本田裕一郎（社会教育係長）

美濃田知也（主事・平成15年度）

調査担当 西口貴志（非常勤・平成15年度、主事・平成16年度）

発掘作業員 上田哲生・上田眞一・志垣純一・山下義富・園田秀樹・上田トミ子・平野千鶴子・上田明美・上田利恵・草場紀子・渡辺節子・園田イツ子・淋ニシエ・園田由美子・草場静夫・園田美知男・上田栄一・平野友従・上田裕子（平成15年度）・岡崎淳子（平成15年度）・林ヒロ子（平成15年度）・金柿隆一（平成15年度）

【遺物整理作業（平成17年度）】

整理責任者 溜淵誠也（甲佐町教育長）

整理事務局 本田和登（社会教育課長）

本田裕一郎（社会教育係長）

整理担当 西口貴志（主事）

整理作業員 草場静夫・平野友従・上田眞一・上田裕子・園田由美子・志垣みどり

【報告書作成（平成18年度）】

作成責任者 溜淵誠也（甲佐町教育長）

作成事務局 本田和登（社会教育課長）

本田裕一郎（社会教育係長）

作成担当 西口貴志（主事）

調査協力者 久米壯亞・内村龍一・本田荘一・清村一男（甲佐町文化財保護委員）・清村守（前甲佐町文化財保護委員）・野田英治・廣田静学・内田成香（熊本県教育庁文化課）・清田純一（城南町教育委員会）・堤英介（益城町教育委員会）・中川裕二（嘉島町教育委員会）・西慶喜（山都町教育委員会）（順不同・敬称略）

第3節 試掘調査と本調査の経過について

1 試掘調査の概要

今回、発掘調査を実施した熊本県上益城郡甲佐町大字世持地区は、熊本県教育庁文化課が平成14年6月3日～4日及び平成14年8月21日に行った試掘調査で確認した、新規の遺跡である。試掘調査では、事業予定地内で試掘坑を掘削し、古代及び中世の遺構（柱穴と思われるピット及び土坑）を検出、土師器・須恵器・磁器等が出土している。

その結果、遺跡の時期は古代～中世、遺跡の名称を「世持・石佛遺跡」「世持・道免遺跡」とし、当該事業地を周知の埋蔵文化財包蔵地として認知した。

2 本調査の経過

本調査は、平成15年8月20日付け上益城農整第327号により、熊本県上益城地域振興局の依頼を受け甲佐町教育委員会が実施した。発掘調査面積は総面積3,267㎡（世持・石佛遺跡1,000㎡、世持・道免遺跡2,267㎡）で、平成15年度には世持・石佛遺跡900㎡、平成16年度には世持・石佛遺跡100㎡、世持・道免遺跡2,267㎡が終了し、上益城地域振興局へ調査区の引渡しを行っている。

○ 調査日誌から . . .

【平成16年1月】

重機による表土剥ぎを開始。世持・石佛遺跡Ⅰ区北側から遺構検出を始める。

【平成16年2月】

世持・石佛遺跡Ⅱ区の遺構検出及び遺構の掘り下げを実施。

【平成16年3月】

世持・石佛遺跡Ⅰ・Ⅱ区の遺構測量を実施し、世持・道免遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ区の表土剥ぎを実施。

【平成16年4月】

世持・道免遺跡Ⅰ・Ⅱ区の表土剥ぎを開始。

【平成17年5月】

世持・道免遺跡Ⅰ・Ⅱ区の遺構検出開始。

【平成17年6月】

世持・道免遺跡Ⅳ区の遺構検出開始

【平成17年7月】

世持・石佛遺跡Ⅲ区、世持・道免遺跡Ⅲ区の表土剥ぎを開始。

【平成17年8月】

世持・道免遺跡Ⅲ区の遺構検出開始。

【平成17年9月】

世持・石佛遺跡Ⅲ区の遺構検出開始。

【平成17年10月】

世持・道免遺跡Ⅲ区遺構掘削開始。

【平成17年11月】

世持・石佛遺跡、世持・道免遺跡の遺構測量を実施。調査を終了した。

第4節 報告書作成業務の経過

出土した遺物及び作成した図面の整理作業は、事業地区である世持区の協力を得て、平成17年度に実施した。作業は、世持部落公民館横の敷地にプレハブを設置。遺物（出土土器・石器）の洗浄・注記、図面・写真の整理を行った。

第Ⅱ章 遺跡の概要

1 遺跡の地理的環境

甲佐町は、熊本県のほぼ中央、上益城郡の南西部に位置し、北を上益城郡御船町、西を下益城郡城南町、東及び南を下益城郡美里町と接する。

町の大きさは、東西11km、南北10kmにわたり、周囲は南東の九州山地を背に、北を御船台地、北西を乙女台地に挟まれ、町の中央を一級河川である緑川が貫流する。この緑川は、九州山地の三方山を源に、南東から西へ流れ、美里町から流れる津留川と合流し、北に流れを变える。

町の中央を流れるこの緑川は、集落の形成と密接に関係している。緑川は、近世以前は現在の位置より東側を流れていた（『勝國治水遺』鹿子木量平著）とされ、現在の甲佐町の平野部は緑川と津留川に挟まれ、水害の絶えない土地だったという。このため、加藤清正は藩ノ瀬堰の築造（1608年）をはじめとした治水事業を実施し、緑川は現在の場所に掘り替えられ、幾多もの堰（麻生原堰・糸田堰など）が設けられた。この事業により、緑川の水は農業用水として分水され田畑を潤し、緑川と津留川に挟まれていた平野部の洪水による被害は少なくなった。甲佐町の東部に位置する山々の裾には、かつて緑川が流れていた名残で「砂溜」「早川」「中洲」など川に因んだ地名が今でも残っている。

本遺跡（世持・石佛遺跡、世持・遺免遺跡）は、この緑川の左岸にある乙女台地から伸びる標高70.0mの丘陵上に位置し、河川との比高差は50m、西側の世持区との比高差は30mを測る。台地の両脇は河川が流れ、また土質は火山灰土を基本に堆積しており、遺跡の立地としては非常に恵まれた地形にある。但し、調査を実施した事業地内は、調査以前はほとんどが畑地又は栗等の果樹園であったため、畑地造成時に大部分が削られ、遺構面自体も大幅に荒らされている状態にあった。

2 遺跡の歴史的環境

甲佐町内には、多くの埋藏文化財包蔵地が確認されているが、調査が行われたところは少なく、その明確な時期や範囲は明らかでない。

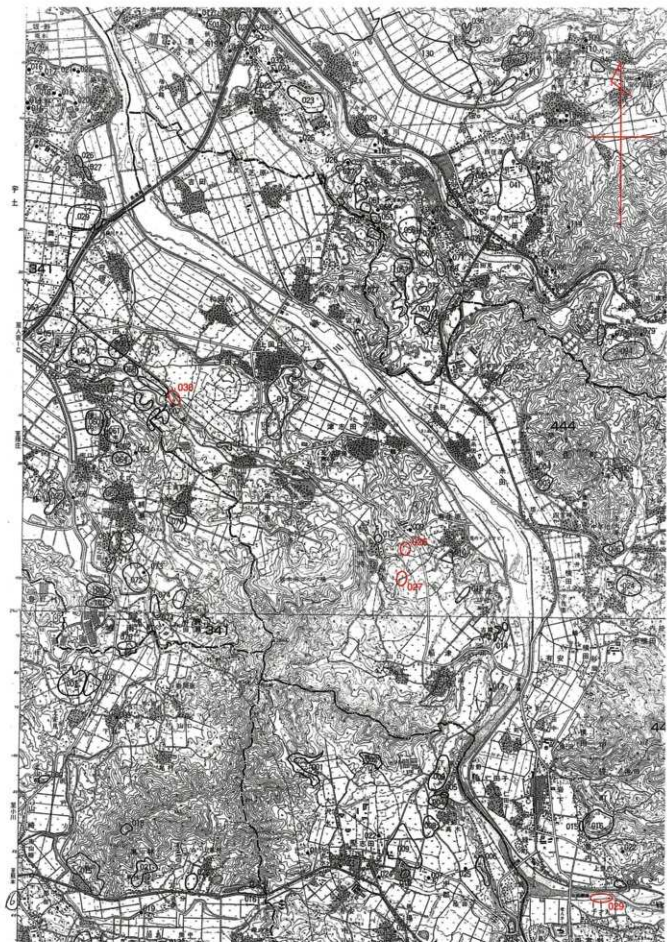
今回調査を実施した世持・石佛遺跡及び世持・道免遺跡が立地する乙女台地及びその周囲は、台地や谷、川など起伏に富む地形をなす。乙女台地上での各時期の包蔵地の分布を概観すると、旧石器時代の包蔵地は未だ確認されていないが、同台地上では城南町で沈目遺跡が確認され、また町内でも緑川を挟んだ対岸で大峯遺跡、幸野遺跡が確認されており、町内でも特にこの乙女台地上で新たに発見される可能性は十分にある。

縄文時代になると、多くの遺跡でその痕跡が確認される。麻生原遺跡では早期・中期・晩期の遺物が確認され、周囲で沈目五山遺跡、田口東原遺跡、世持遺跡等でも縄文時代の遺物が確認されている。同時代の包蔵地は、台地上を北から南まで幅広く分布しており、その様相は弥生時代まで続く。

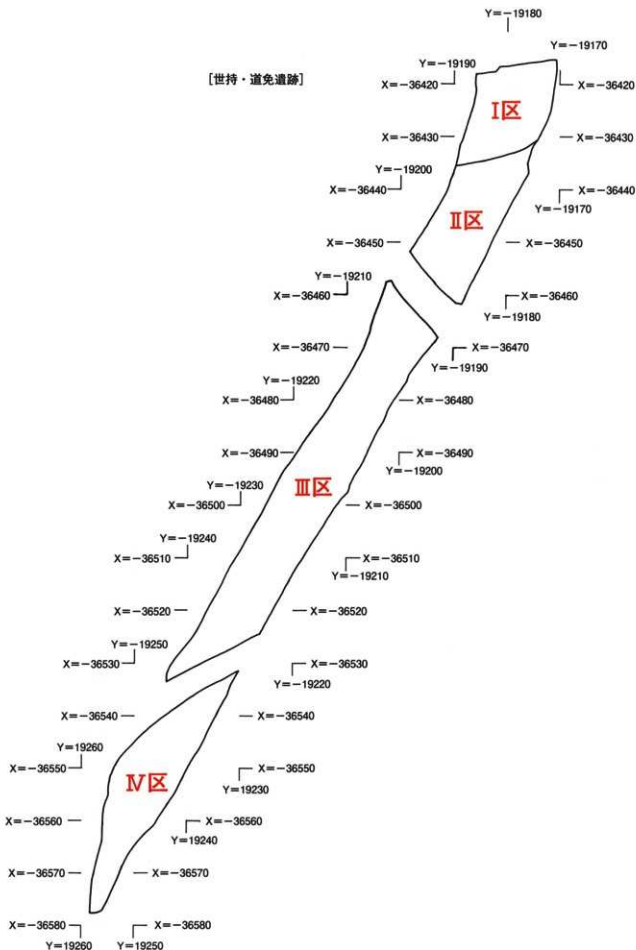
古墳時代や古代、中世になると、状況が変化する。古墳時代は、集落跡や包蔵地がなくなり、墳墓や横穴墓ばかりとなる。また、古代・中世になると、遺跡自体の数が大幅に減少する。これらは、調査事例が少ないことの影響とみられる。現地を踏査すると、古墳時代や中世のものともみられる遺物を採集することができ、今後試掘調査や確認調査等により増加していくことが予想される。

調査区周辺の文化財包蔵地一覧

| No | 名称 | 種別 | 時期 | 所在地 |
|-----|----------|-----|-------|----------|
| 001 | 中尾原 | 包蔵地 | 弥生 | 白旗 中尾 |
| 002 | 北早川横穴群 | 古墳 | 古墳 | 白旗 北早川 |
| 003 | 早川城跡 | 城 | 中世 | 早川 下小塚 |
| 004 | 円福寺跡 | 寺社 | 中世 | 早川 |
| 005 | 大峯 | 包蔵地 | 旧石器 | 上早川 |
| 006 | 南早川城 | 城 | 中世 | 早川 城下 |
| 007 | 中山字下遺横穴群 | 古墳 | 古墳 | 中山 下道 |
| 008 | 沈目五山 | 包蔵地 | 縄文～中世 | 田原 |
| 009 | 塔の木さん古墳 | 古墳 | 古墳 | 麻生原 坂の上 |
| 010 | 麻生原 | 包蔵地 | 縄文・弥生 | 麻生原 坂の上 |
| 011 | 中山横穴群 | 古墳 | 古墳 | 中山 |
| 012 | 世持 | 包蔵地 | 縄文～中世 | 世持 |
| 013 | 田口東原 | 包蔵地 | 縄文 | 田口 東原 |
| 014 | 船津東前横穴群 | 古墳 | 古墳 | 船津 (通称谷) |
| 015 | 下豊内横穴群 | 古墳 | 古墳 | 下豊内 |
| 016 | 障ノ内館跡 | 館 | 中世 | 豊内 障ノ内 |
| 017 | 磨崖五輪塔・磨崖 | 石造物 | 中世 | 船津 南原 |
| 018 | 八つ割 | 埋葬 | 弥生 | 船津 八つ割 |
| 020 | 緑川製糸場跡 | 包蔵地 | 近代 | 豊内 |
| 022 | 甲佐城跡 | 城 | 中世 | 豊内 南谷川 |
| 024 | 幸野 | 包蔵地 | 旧石器 | 幸野 |
| 026 | 世持・石佛 | 包蔵地 | 古代 | 世持 石佛 |
| 027 | 世持・道免 | 包蔵地 | 古代 | 世持 道免 |
| 029 | 日和瀬 | 建造物 | 近世以降 | 寒野 千才丸 |
| 030 | 中山錦川 | 集落 | 弥生・古代 | 中山 錦川 |



[世持・道免遺跡]



3 実測図の作成

実測図の縮尺は、遺跡全体図（平面図）を1/100、個別の遺構図（平面図・断面図）を1/20又は1/10で作成した。作図の方法は、遺跡全体図については光波測距機を用いた図化、個別の遺構図については手計りによる実測を行った。

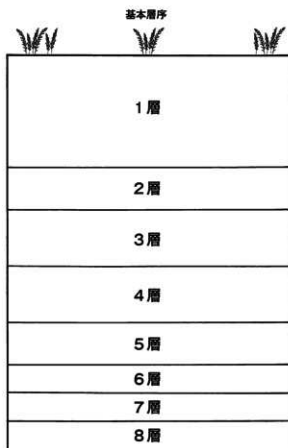
4 写真による記録

写真は、遺構毎に検出状況、土層断面、完掘状況をカラー及びモノクロで小型カメラを用いて3枚ずつ撮影した。また、この他に調査の進捗や出土内容によって、広範囲にわたる出土状況や掘削状況等を撮影した。

5 基本層序

本発掘調査は、県営農免農道整備事業に伴い2年間実施したもので、2遺跡（世持・石佛遺跡、世持・道免遺跡）にまたがる。通常であれば、遺跡毎に別々の基本層序を記載すべきであるが、地形や掘削前の畑地の耕作状況により若干の違いが見られるものの、両遺跡の基本層序はほぼ同一であるため、基本層序は統一して記載する。なお、基本層序は、世持・石佛遺跡Ⅱ区南部の土層断面を参考に作成した。

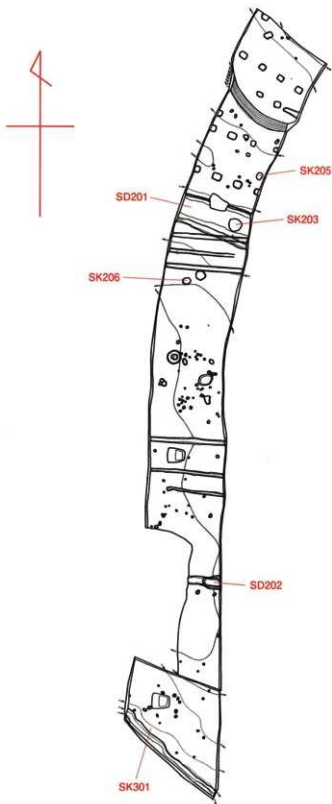
- 第1層 ぶい黄褐色土 (40cm)
しまりなく1~2cm程度の
小石を含む。耕作土。
- 第2層 ぶい黄褐色土 (15cm)
1層に若干暗みが増す。耕作土。
- 第3層 明黄褐色軟質土 (20cm)
- 第4層 黒褐色粘質土 (20cm)
- 第5層 灰褐色粘質土 (15cm)
硬質で樹痕や亀裂が入る。
- 第6層 灰褐色粘質土 (10cm)
- 第7層 ぶい橙色粘質土 (10cm)
- 第8層 橙色粘質土
ローム層



第2節 遺構と遺物

1 世持・石佛遺跡

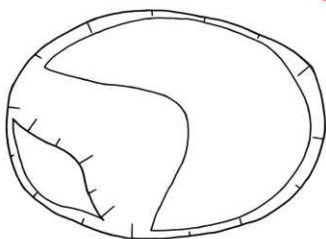
世持・石佛遺跡では、Ⅱ区で縄文時代の土壇2基、近世の溝2条、時期不明の土壇1基、Ⅲ区で縄文時代の埋甕を検出した。以下にその詳細を記す。



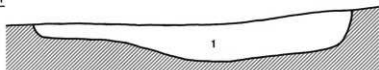
[2区]

(1) 縄文時代

SK205

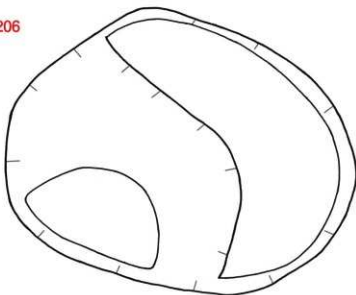


72.0m

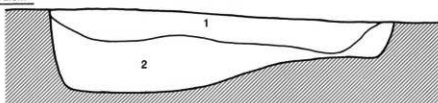


1. 暗褐色土

SK206



72.0m



1. 茶褐色土
2. 暗褐色土



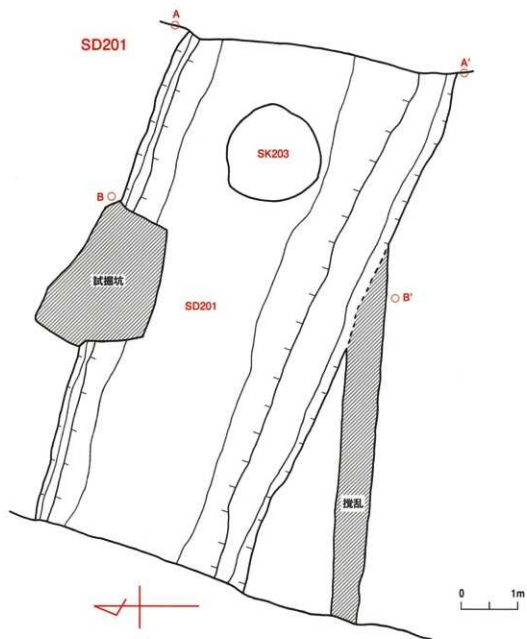
SK205 (土壇)

Ⅱ区北側に位置し、楕円形を呈す。長軸1.02m、短軸0.73mを測る。下端は、一部テラス状となっており、テラス部分の深さは0.04～0.07m、下端の深さは0.10～0.12mを測る。土層は2層に分けられ、遺物は出土しなかった。層位から縄文時代の土壇と判断した。

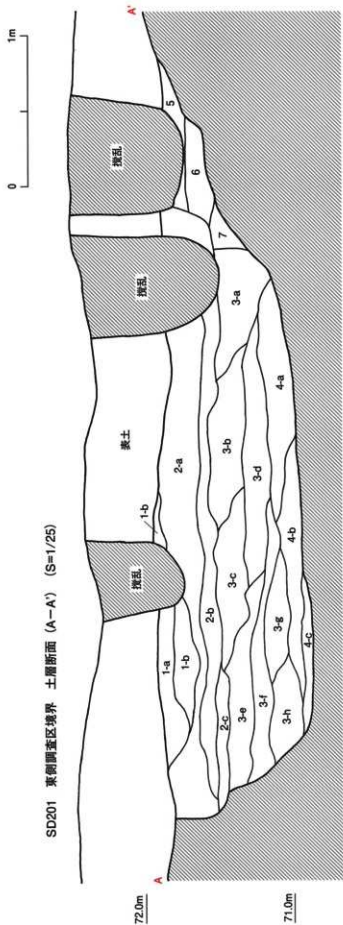
SK206 (土壇)

Ⅱ区の北東部に位置し、楕円形を呈す。長軸1.12m、短軸0.88mを測る。下端は、一部テラス状となっており、テラス部分の深さは0.12～0.18m、下端の深さは0.25～0.26mを測る。土層は1層に分けられ、遺物は出土しなかった。層位から縄文時代の土壇と判断した。

(3) 近世

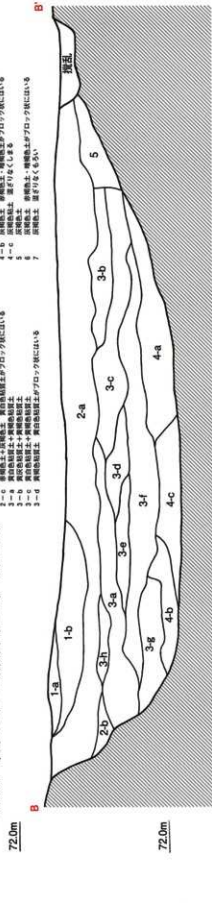


SD201 東側調査区境界 土層断面 (A-A') (S=1/25)



- SD201 (A-A')
- 3-9 黄褐色粘土+黄褐色粘土
 - 3-8 黄褐色粘土
 - 3-7 黄褐色粘土
 - 3-6 黄褐色粘土
 - 3-5 黄褐色粘土
 - 3-4 黄褐色粘土
 - 3-3 黄褐色粘土
 - 3-2 黄褐色粘土
 - 3-1 黄褐色粘土

SD201 中央ヘルト 土層断面 (B-B') (S=1/25)



- SD201 (B-B')
- 3-9 黄褐色粘土+黄褐色粘土
 - 3-8 黄褐色粘土
 - 3-7 黄褐色粘土
 - 3-6 黄褐色粘土
 - 3-5 黄褐色粘土
 - 3-4 黄褐色粘土
 - 3-3 黄褐色粘土
 - 3-2 黄褐色粘土
 - 3-1 黄褐色粘土

SD201

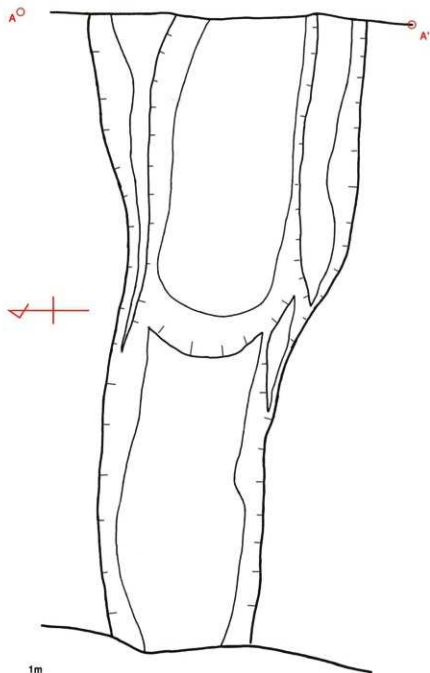
溝は、調査区を横切るように東西に位置し、長さ9.2~10.0m、幅4.0~4.8mを測る。東側は広がり、西側は窄まる。土層断面図から、2回にわたる掘り直し、計3回の掘削跡が確認できた。また、SK203を切っており、SK203埋没以後の遺構である。

掘削時の規模は、遺構上部を削られた可能性があり判断が難しい。現況で推測すれば、1度目の掘削規模は残存が断片的であり不明だが、2度目の規模は深さ0.9cm・幅3.6m、3度目の規模は深さ30cm・幅4.1mを測る。

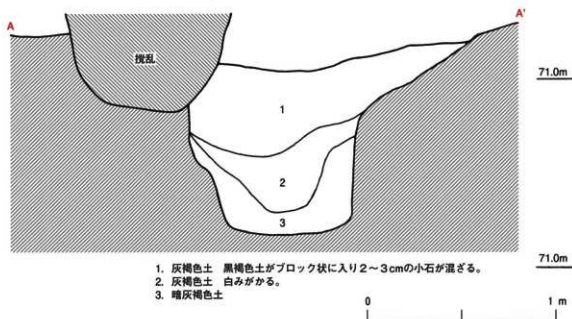
遺構の時期は、埋土中から出土した実測に満たない磁器の細片のみで資料的に乏しいが、埋土の状況から近世であろう。下層では、硬化面は確認できなかった。区画のための溝と思われる。

SD202

(S=1/25)



SD202 調査区東側 土層断面 (S=1/20)



SD202

溝は、調査区を横切るように東西に位置し、長さ1.3m、幅1.0mを測る。

遺構の時期は、埋土中から出土した実測に満たない土器片のみで資料に乏しいが、埋土の状況から近世であろう。SD201同様、硬化面は確認できなかった。区画のための溝と思われる。

(2) 時期不明

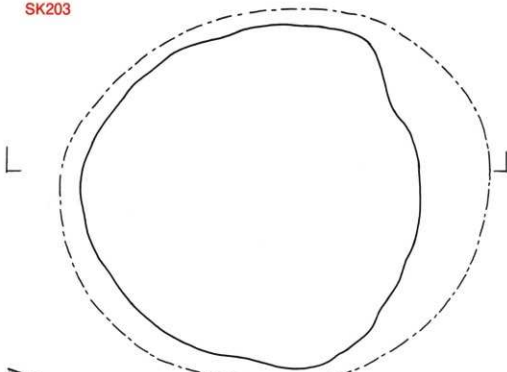
SK203

SD201に切られ、Ⅱ区中央部に位置する。SD201完掘後、遺構の検出を行い、掘り下げを行ったが、危険を伴う深度に達したため掘り下げを断念した。土層は、18層に分けられ、上端付近の土を含む崩落土を含んでいることから、大規模に埋没した様子が確認できた。下層にいくに従い広がっていき、遺物は埋土の上層で実測にみえない近世の磁器が一点出土しただけだった。

検出時の上端は、円形を呈し、長軸1.69m、短軸1.65mを測る。上部をSD201に切られており、遺構が作られた時の正確な規模については不明である。また、下端についても同様で完掘できなかったため、正確な規模は不明であるが、深さ1.8m時の大きさは、長軸2.86m、短軸2.36mを測る円形を呈す。

SK203

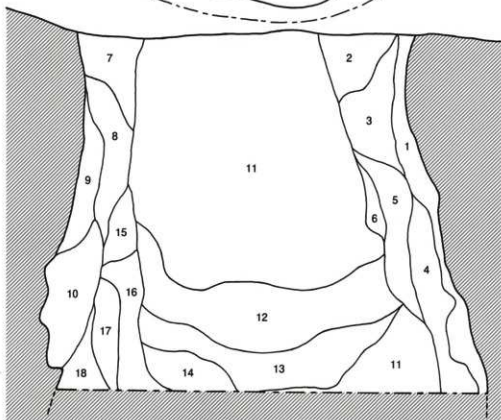
17



71.0m

70.0m

69.0m



SK203

- 1 灰褐色砂質土 しまりなくゆるい
- 2 茶褐色粘質土 若干粘性がある
- 3 暗褐色粘質土 暗灰色土をブロック状に含む
- 4 明黄褐色粘土 ※崩落土
- 5 茶褐色砂質土
- 6 暗褐色砂質土

- 7 灰褐色粘質土 褐色土をブロック状に含む
- 8 灰褐色砂 茶褐色土をブロック状に含む
- 9 明黄褐色粘土 ※崩落土
- 10 灰褐色砂質土 黄白色粘土ブロック状に含む
- 11 茶褐色粘質土 ※褐色土・暗褐色土をブロック状に含む 炭化物が混ざる
- 12 茶褐色粘質土 粘性が高い

- 13 暗茶褐色粘質土+暗灰色粘土 若干粘性がある
- 14 暗褐色粘質土 しまりなくゆるい
- 15 茶褐色粘質土 黄褐色粘土をブロック状に含む
- 16 明黄褐色土 暗褐色土が混ざる
- 17 暗灰色粘土+茶褐色粘質土 しまりがない
- 18 黄白色粘土 ※崩落土

Ⅲ区

(1) 縄文時代

Ⅲ区南端にて、埋甕1基を検出した。埋甕内には、更に1点の土器が伏せた状態で埋納されていたが、埋甕内及び埋納土器内に他の遺物の出土はなかった。堆積土は、赤褐色土一層のみであった。埋甕の規模は長軸0.55m、短軸0.50mの不整円形を測る。

SK301



埋甕出土状況 (南から)



埋甕内 土器出土状況 (南から)



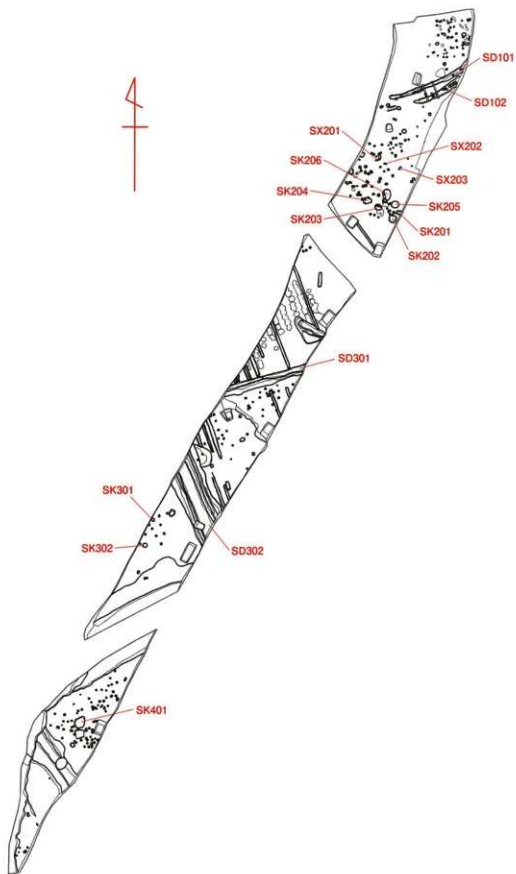
埋甕内 完掘状況 (南から)



完掘状況 (南から)

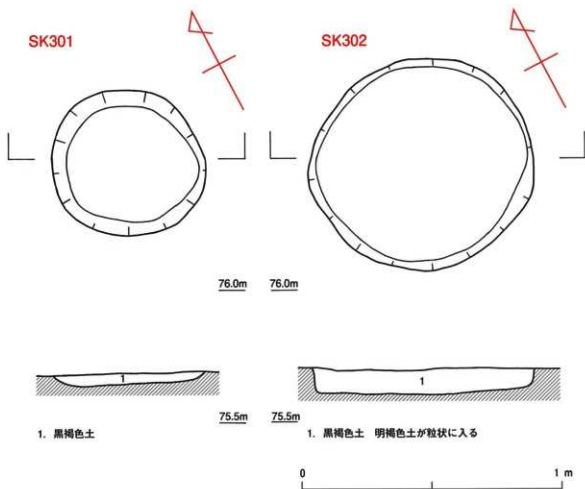
2 世持・道免遺跡

世持・道免遺跡では、溝4条、土壇9基、炉跡3基を検出した。以下にその詳細を記す。



(1) 縄文時代

縄文時代の土壌として調査Ⅲ区で2基検出した。



SK301

Ⅲ区南側に位置し、直径0.54～0.58mの円形を呈す。深さは、0.04～0.05mと浅く、土層は1層となる。遺物は出土していないが、同じ層から縄文期の遺物が出土している。性格等は不明。

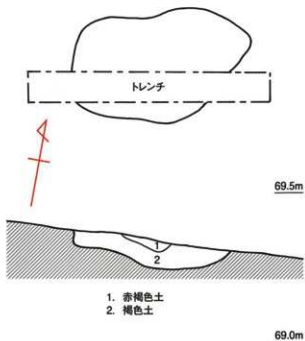
SK302

Ⅲ区南側、SK301の南に位置する。直径0.81～0.84mの円形を呈す。深さは、0.08～0.09mと浅く、土層は1層となる。遺物は出土していないが、同じ層から縄文期の遺物が出土している。性格等は不明。

(2) 古代

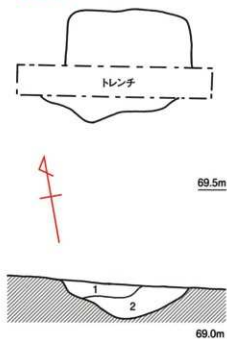
古代の遺構として、調査Ⅱ区で炉跡を3基検出した。

SX201



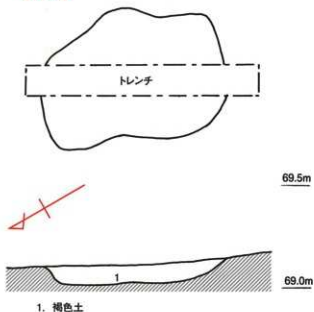
1. 赤褐色土
2. 褐色土

SX202



1. 赤褐色土
2. 褐色土

SX203



1. 褐色土

0 1 m

SX201

Ⅱ区北側に位置し、0.34m～0.62mの不整形の炉跡である。焼土は深さ0.05～0.09mの範囲まで広がる。土層は2層に分けられる。炉跡から遺物は出土していないが、周囲から、古代の土器が出土した。

SX202

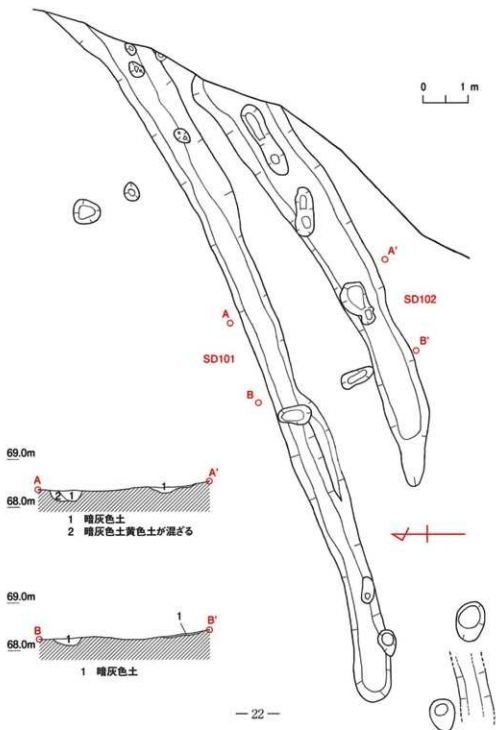
Ⅱ区北側、SX203の東側に位置し、0.33m～0.54mの不整形形の炉跡である。焼土は深さ0.05～0.11mの範囲まで広がる。土層は2層に分けられる。炉跡から遺物は出土しなかった。

SX203

Ⅱ区北側に位置、SX202の東側に位置し、0.41～0.65mの不整形形の炉跡である。焼土は深さ0.05～0.06mの範囲まで広がる。土層は1層のみで、炉跡から遺物は出土しなかった。

(3) 近世

近世の遺構として、調査Ⅰ区で溝を2条、調査Ⅲ区で溝を2条、調査Ⅳ区で土坑1基を検出した。

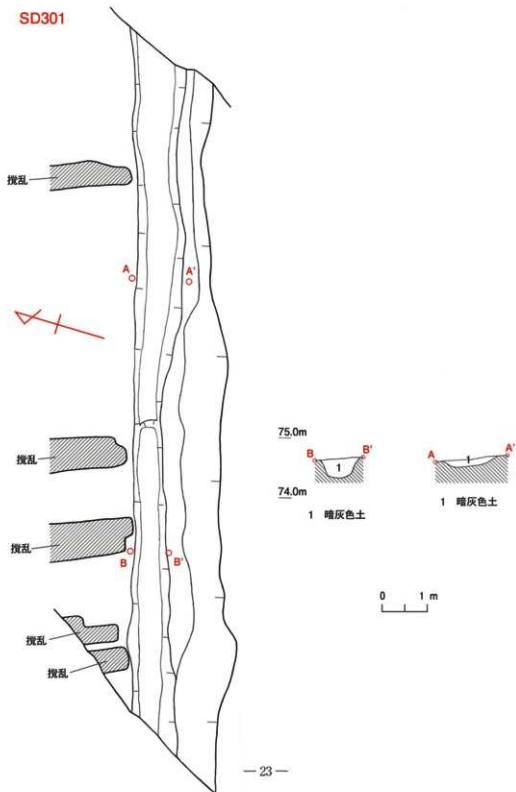


SD101

I区中央に位置し、調査区を横切るように東西に位置する。幅0.59～1.00m、深さ0.15～0.20mを測る。断面の土層は1層に分けられる。SD202と平行に位置する、区画のための溝である。

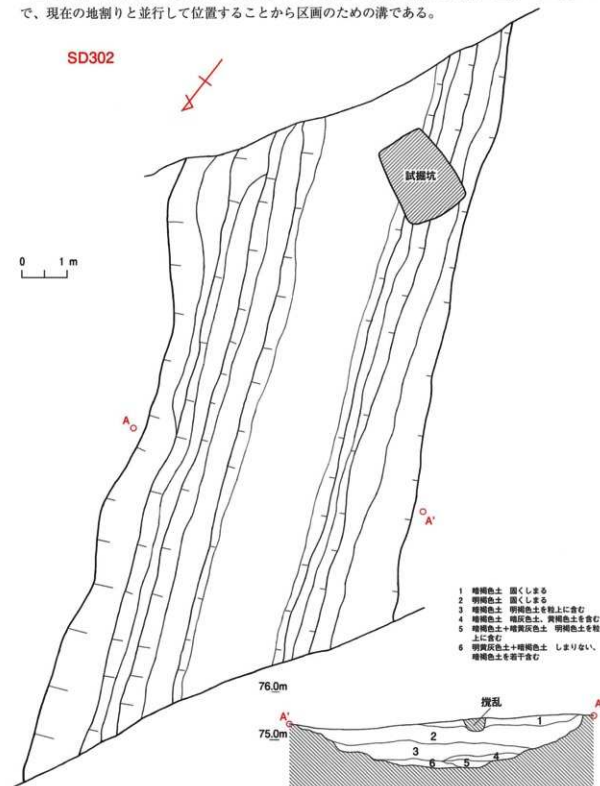
SD102

I区中央に位置し、SD201と平行して東西に位置する。幅0.76～1.28m、深さ0.04～0.10mを測る。土層は1層に分けられる。SD201と平行に位置する、区画のための溝である。



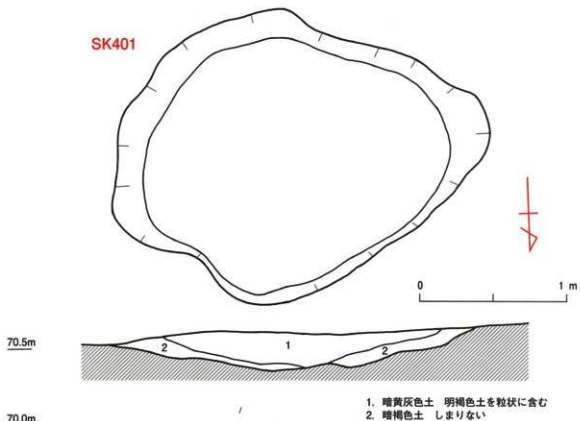
SD301

Ⅲ区北側に位置する。幅は0.56~1.12m、深さは0.12~0.32mを測る。断面の土層は、1層のみで、現在の地割りと並行して位置することから区画のための溝である。



SD302

Ⅲ区中央に位置し、幅5.71~6.48m、深さは0.96~1.21mを測る。硬化面は確認できず、現在の地割りと並行して位置することから区画のための溝である。

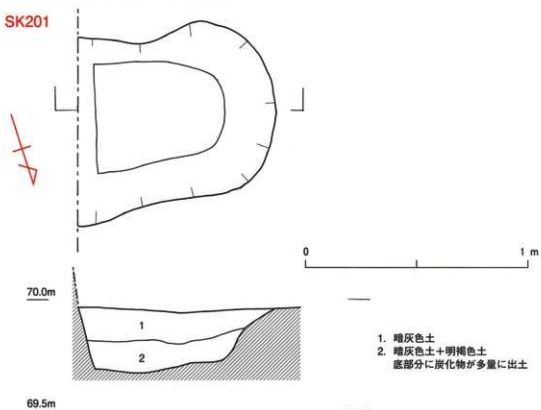


SK401

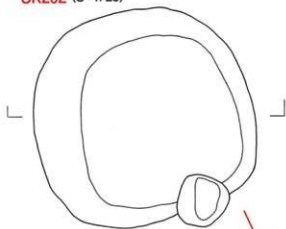
調査IV区中央に位置する。長軸2.47m、短軸1.94mの不整形円で、深さは0.11～0.24mを測る。用途不明の土壌である。

(4) 時期不明

調査I区で、時期不明の土壌6基を検出した。



SK202 (S=1/25)



70.5m

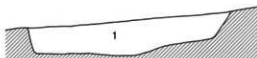


1. 暗褐色土 暗灰色土が若干混ざる

SK203 (S=1/25)

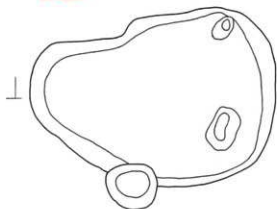


70.0m



1. 暗褐色土

SK204 (S=1/25)

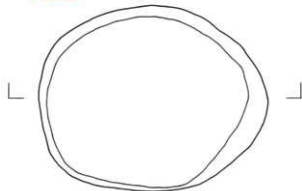


71.0m 70.0m

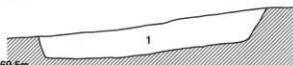


1. 暗褐色土 炭化物が若干混ざる

SK205 (S=1/25)



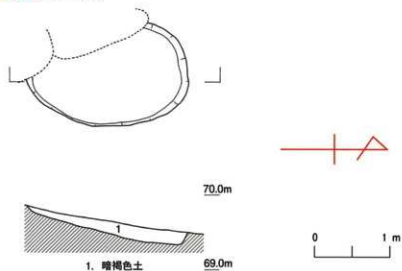
70.5m 69.5m



1. 暗褐色土 炭化物が若干混ざる



SK206 (S=1/50)



SK201

Ⅱ区南側に位置し、楕円形を呈す。調査区にかかるようなかたちで検出した。長軸は不明だが、短軸0.71m、深さ0.24～0.28mを測る。埋土中に炭化物を確認した。焼土等は出土せず、炭化物も断片的であったため、流れ込みと考えられる。

SK202

Ⅱ区南側に位置し、直径1.48mの円形を呈す。深さ0.14～0.23mで、下端は平坦である。

SK203

Ⅱ区南側に位置し、直径1.36mの円形を呈す。深さ0.17～0.23mを測る。

SK204

Ⅱ区南側に位置し、1.14～1.64mの不整形を呈す。深さ0.04～0.15mを測る。

SK205

Ⅱ区南側に位置し、長軸1.54m、短軸1.23mの楕円形を呈す。深さは、0.15～0.20mを測る。

第Ⅳ章 考察

今回調査を行った、世持・石佛遺跡、世持・道免遺跡は同じ台地上に属するが、出土様相は大きく異なる。

世持・石佛遺跡では、近世の遺構が中心に出土したが、遺物包含層から多くの縄文時代晩期の土器が出土したことは大きな成果である。遺構には伴わないものの、隣接地には住居址などを含めた生活遺跡があることが予想され、この遺跡が位置する丘陵は東側から西側に向かって落ちていく地形であることから、生活の主体は調査区外の東側にあったものと思われる。また同時期の遺跡として世持遺跡が西側の斜面下にあり、本遺跡となんらかのつながりがあったことが想像できる。

世持・道免遺跡では、世持・石佛遺跡で見られた縄文期の遺物はほとんど出土しなかった。古代や、近世の遺構を中心とし、特にⅡ区では炉跡など生活に即した遺構を検出した。

また、Ⅲ区では近世の溝の他に縄文期の土壌を検出し、Ⅳ区では後世に旧地形を大きく削られながらもピットを多く検出した。これらは、今回の調査では規則性は見出せなかったが、今後周囲の調査例が増えれば、掘立柱建物の柱穴となる可能性がある。

圖 版

世持・石佛遺跡

世持・道免遺跡

世持・石佛遺跡



1. II・III区 調査前風景 北から



2. II区 基本層序 土層断面



3. II区 SK205 土層断面 西から

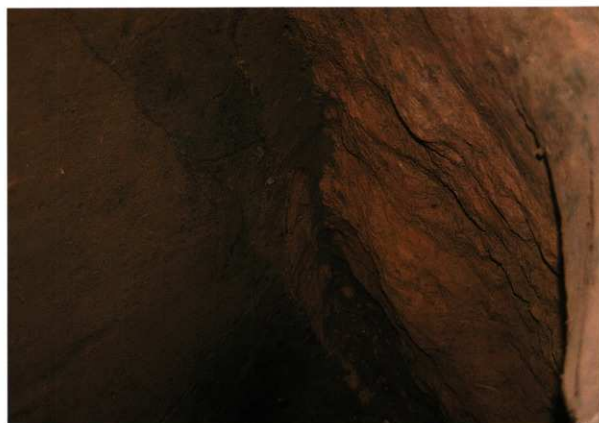


4. II区 SK206 土層断面 南から

世持・石佛遺跡



5. II区 SK203 土層断面 東から



6. II区 SK203 土層断面 (崩落土) 東から



7. II区 SK203 掘削状況 西から



8. II区 SD201 検出状況 東から

世持・石佛遺跡



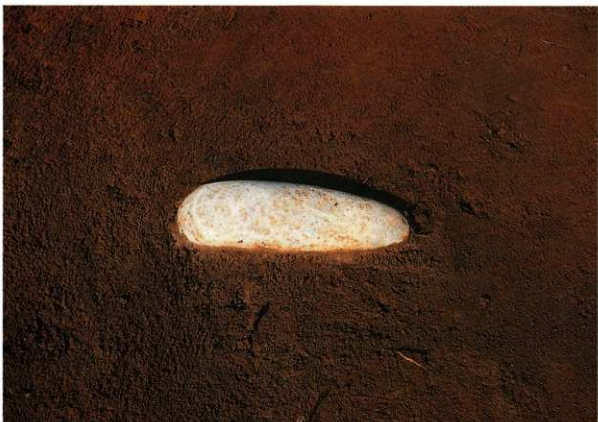
9. II区 SD201 土層断面 西から



10. II区 SD201 完掘状況 東から

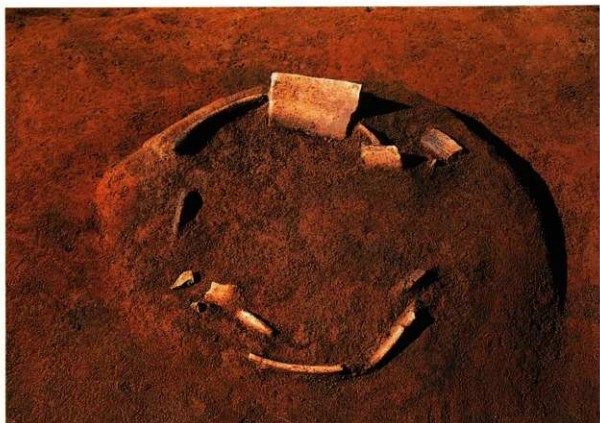


11. II区 SK203・SD201 完掘状況 南から



12. II区 磨製石斧 出土状況 南から

世持・石佛遺跡



13. Ⅲ区 SK301 検出状況 南西から



14. Ⅲ区 SK301 土層断面 東から



15. III区 SK301 出土状況 南から

世持・道免遺跡



1. Ⅲ・Ⅳ区 調査前風景 北から



2. Ⅰ区 SD101・SD102 検出状況 西から



3. II区 SK201 土層断面 北から



4. II区 SK201 炭化物出土状況 南西から

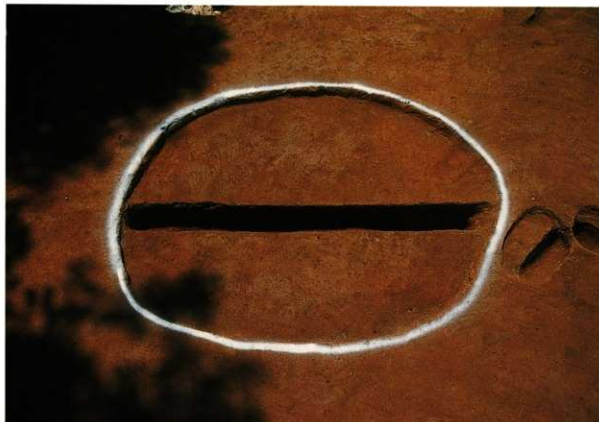
世持・道免遺跡



5. II区 SK203 検出状況 北から



6. II区 SK204 検出状況 南から

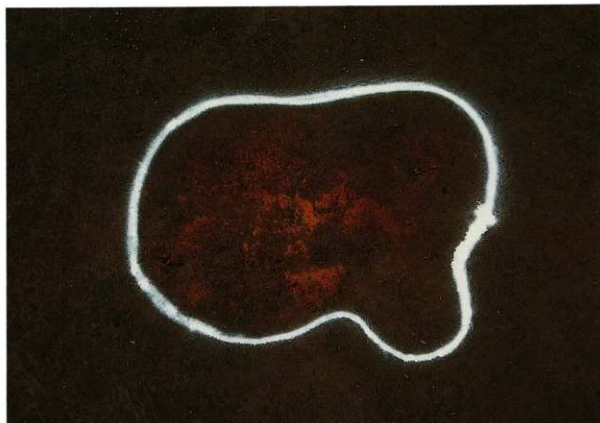


7. II区 SK205 検出状況 北から



8. II区 SK205 土層断面 北東から

世持・道免遺跡



9. II区 SX201 検出状況 北から



10. II区 SX201 土層断面 南西から



11. II区 SX202 検出状況 北東から



12. II区 SX202 土層断面 南から

世持・道免遺跡



13. Ⅲ区 SK302 土層断面 南東から



14. Ⅲ区 SD301 検出状況 西から

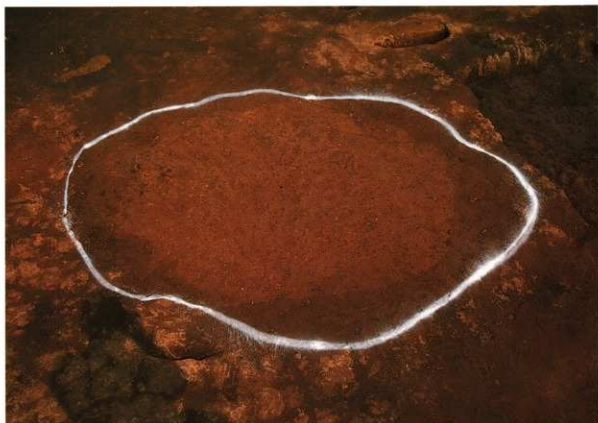


15. Ⅲ区 SD302 検出状況 南から



16. Ⅲ区 SD302 土層断面 南から

世持・道免遺跡



17. IV区 SK401 検出状況 西から



8. IV区 SK401 土層断面 南東から

甲佐町文化財調査報告書第1集

世持・石佛遺跡

世持・道免遺跡

発行年月日 2007年3月31日

編集・発行 熊本県上益城郡甲佐町大字豊内719番地4
甲佐町教育委員会

印刷所 熊本県宇城市不知火町長崎240-1
シモダ印刷株式会社
